

母性看護学演習

[演習] 第3学年 前期 必修 1単位

《履修上の留意事項》この講義は変則運用のため、講義日時に注意する。
技術演習は面接授業と遠隔授業の併用実施。
講義は遠隔授業。

《担当者名》○遠藤 紀美恵 嶋田 あゆみ 常田 美和

【概要】

母性看護学演習は、2年次の母性看護学や母性病態論で学んだ知識を活用し、周産期母子事例の看護展開と母性看護実践に必要な実践的能力を身につけるために学ぶ。

この学びは、母性看護学実習で対象者のニーズに対して、適切な判断と解決できる実践的能力のための専門的な基礎知識、および技術である。

【学習目標】

妊娠・分娩・産褥期および新生児期の人々が健康な生活を営むために必要な援助について、適切な判断と解決できる実践的能力を身につける。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	・演習の目的、進め方、評価の説明	遠藤 嶋田 常田
2・3	事例展開	産褥期母子事例を用い、産褥期母子に必要な援助を立案 ：妊娠期・分娩期のアセスメント	遠藤 嶋田 常田
4・5	事例展開	産褥期母子事例を用い、産褥期母子に必要な援助を立案 ：産褥期・新生時期のアセスメント	遠藤 嶋田 常田
6・7	事例展開	産褥期母子事例を用い、産褥期母子に必要な援助を立案 ：産褥母子の援助計画立案	遠藤 嶋田 常田
8・9	技術演習	新生児のバイタル測定・全身観察 面接授業。	遠藤 嶋田 常田
10	事例展開	課題学習 新生児の沐浴（DVD視聴）	遠藤 嶋田 常田
11・12	技術演習	産褥子宮復古の観察とアセスメント	遠藤 嶋田 常田
13・14	事例展開	産褥期母子事例（異常編＝帝王切開術）を用い、産褥期母子に必要な援助を立案	遠藤 嶋田 常田
15	講義まとめ	事例展開 の解説 課題・定期試験の提出 面接授業	遠藤 嶋田 常田

【評価方法】

演習課題60%、定期試験40%（講義最終日に提出）

【備考】

教科書 : 前原 澄子:母性 (新看護観察のキーポイントシリーズ) 2015年 中央法規(2年次購入済み)
前原 澄子:母性 (新看護観察のキーポイントシリーズ) 2015年 第2版 中央法規(2年次購入済み)
森 恵美:系統看護学講座専門分野 母性看護学〔2〕母性看護学各論 2016年 医学書院(2年次購入済み)

参考書 : 森 恵美:系統看護学講座専門分野 母性看護学〔1〕母性看護学概論 医学書院 2016
横尾 京子編:ナースングラフィカ 母性看護学 母性看護実践の基本 メディカ出版 2013
小沢ひとみ編:写真でわかる母性看護技術 インターメディカ 2012
日本アロマセラピー学会看護研究会 ナースのためのアロマセラピー実践応用編 メディカ出版 2008

【学習の準備】

母性看護学の母性看護過程の展開の項目を復習しておくこと。
事例展開に必要な母性病態論で学習した知識を整理しておく。
沐浴・新生児のバイタルサインズ測定のDVDを事前に視聴する(所要時間15分)。

【ディプロマ・ポリシーとの関連】

DP2,3

【実務経験】

遠藤紀美恵(助産師)、嶋田あゆみ(助産師)、常田美和(助産師)

【実務経験を活かした教育内容】

臨床での助産師としての実務経験を活かし、実践的教育を行う。